

多摩市医療的ケア児（者）連携推進協議会 第3回 要点録

日 時	令和元年11月7日（木） 18:30～20:30	場所	多摩市役所 401会議室
出席	新垣、市川、上原、大瀧、影近、五味、高橋 富田、村井、医療的ケア児保護者2名		
事務局	小野澤健康福祉部長 伊藤保健医療政策担当部長 障害福祉課 松本課長、田島発達支援担当課長、相良主査、曾山主査、鈴木主査、阿内主任、渡邊、石山 健康推進課 金森課長、五味田主査 子育て支援課 松崎課長、田坂公立保育園担当課長、多摩保育園梅田園長、河井主査		
防災安全課	城所課長、西野主査		
記録者	事務局		
項目	1. 開会挨拶 2. 議題 (1)前回の振り返り (2)情報共有 ①多摩市地域防災計画について ②自主防災組織活動について ③災害時個別支援計画について (3)協議 ①医療的ケア児の災害対策 ②今後の進め方について 3. 次回日程について 4. 閉会		
	詳細		
1. 開会	～開会～		
2. 議題	【会長】		
(1) 前回の振り返り	まず初めに前回の振り返りとして、医療的ケア児の実態把握アンケートの結果から防災について、事務局から報告する。 【事務局】 アンケート結果の振り返りをさせていただく。15名の回答の内、12名は準備を行っているという結果だったが、その準備の内容としては普段あるものを余分に置いてあるということで、予備の経管栄養や衛生用品、紙おむつ、予備薬などを多めに持っているという、準備をされている方がほとんどであった。電源の確保、移動手段をどうするか、避		

<p>(2) 情報共有</p> <p>① 多摩市地域防災計画について</p> <p>② 自主防災組織活動について</p>	<p>難場所をどうするか、連絡災害伝言をどうするか、避難情報をどこから得るかなどについてはまだ考えていないという問題が挙がっていた。やはり避難場所、避難方法、停電時の電源などについて課題意識はあるが、具体的にどうしたらいいのかについてはこれから煮詰めていかなくてはならないというアンケート結果であった。</p> <p>次に、前回、意見を板書にまとめながら検討した内容の振り返りだが、近々の問題として、災害について考えていく必要がある。まず、一番怖いのは停電だという話が出た。大規模な停電が起こったときに医療的ケアを持っている方については酸素、吸引、吸入、人工呼吸器等を含め、どのような形で停電の間を過ごしていくかが課題なので、電源の確保は近々の問題である。また、動ける人の移動、避難手段がメインに考えられているので、医療的ケアが必要な方がいろいろな機材を持ちながらどうやって移動するかが問題になるという話が出た。器具が多いので、器具を持ちながら行くのか、それとも行った先でどう対応していくのかといった課題も挙げられた。その他には、非常用電源を配っている自治体もあるが、実際、その非常用電源が急な災害時にはたして使えるものなのかどうかについても検討する必要があるという意見も挙がった。特別支援学校では自主的にいろいろなものを用意しているが基本的には生徒さんの帰宅できない時のためのものである。また、避難場所にどれぐらいのものが確保できているかについての確認は1回した方が良いのではないかという意見なども挙がった。委員からは国立成育医療研究センターの災害対策マニュアルを紹介いただき本日配らせていただいたが、そういったものも参考にしていくと良いのではないかと意見も出ており、まず災害について課題を出して考えていこうという話に至っている。先日の台風のこともあるので、今日の意見交換の中でも話が出てくるかと思う。率直に意見交換をしていけたらと思っているので、よろしくお願いします。</p> <p>〈総務部防災安全課から説明〉</p> <p>〈豊ヶ丘地区自主防災組織から説明〉</p> <p>【会長】 貴重なお話を伺い、自主防災組織等について、質問のある方はお聞きいただければ。自主防災組織の活動について初めてお聞きしたが、リーダーはどのように決めるのか。</p> <p>【防災安全課】 自主防災組織は市内全体に作るということ呼びかけている。母体となっている自治会において、ほぼ全てで自主防災組織を作っていており、大きい管理組合等にも作ってもらっている。賃貸の住宅が集まっている団地等は、継続的に防災活動をしていくような自治会がもともとないので、自主防災組織ができづらい状況がある。個別計画については市としても要配慮者に対する研修会を通じて、個別計画の取り組みについて説明し、作ってくださいというお願いをしている。また、個別にその自主防災組織のリー</p>
--	---

ダーの方を訪問して、個別計画の作成について働きかけているが、地域ではここまで対応するのは難しいという話もある。一方で、市の個別計画とは別に、古い自治会等は自治会名簿を作っていて、配慮が必要な方等を確認し、把握している自治会の自主防災組織というのはあるようである。しかし、市としてはそういった組織については、どこまで要配慮者を把握していて、どの程度普段から付き合いがあるか等、詳細までは把握できていない。地域ごとに要配慮者については課題という意識を持っているようで、活動をしているという状況。

【委員】

自主防災組織の位置づけは、国から作るように求められているものか、多摩市が計画して取り組まれているものか。

【防災安全課】

法律に基づいているものではないが、内閣府から地域ごとに自主防災組織を作るようにというのがあり、各区市町村で作っている。多くが自治会を母体としている。

【委員】

障がい児、障がい者の個別支援計画は各自治体の障害福祉課、保健師、訪問看護師が作っているものだが、地域で作る個別支援計画はどのようなメンバーで作られていて、内容はどのようなものか。

【防災安全課】

地域の自主防災組織で防災活動をしている一般の市民の方が、対象となる要支援者とその家族と一緒に作っていくもので、日々の見守り活動など顔の見える関係を作りながら、災害時に、まず安否確認をすることを目的としている。災害対策基本法に基づいて、市が避難行動要支援者の名簿を作るということと、できれば個別計画を作っていこうということで取り組んでいる。防災としては、自主防災組織を中心として取り組んでいる。

【委員】

顔の見える関係が作られているのは良いこと。医療的ケア児は地域で知られていないことがよく問題になっている。医療的ケア児の実態が把握できていない。地域で顔の見える関係を作りましょう、近所で知り合いを作って助け合える関係を作ってくださいと勧めているが、いろいろな思いもあって難しいところがある。地域から立ち上がった顔の見える関係を作っていただいているというのはありがたく、こういう情報を患者さんのご家族にも共有できれば良いと思った。

【委員】

計画の中に市町村の役割が記載されているが、多摩市では自主防災組織を立てることになった経緯は。

【防災安全課】

災害対策基本法において要配慮者の名簿を作りなさいということで、行政であれば個人情報保護審査会にかけたうえで、共有することができる。地域におろすことが可能となったときに、自主防災組織はほぼ自治会の管理組合なので、自主防災組織におろすことでその地域に浸透するだろうということで、自主防災組織を選んだという経緯がある。

<p>③ 災害時個別支援計画について</p>	<p>【委員】 計画について多摩市として研修、周知の他にしていることはあるか。</p> <p>【防災安全課】 自主防災組織の方々、東京都の広域的にやっている方に来てもらい、深い話をしている。周知としては様々な媒体を使い、実施している。市としてできることは全てしているが、受け取り手に広まっていない状況。</p> <p>〈村井委員から説明〉</p>
<p>(3) 協議 ① 医療的ケア児の災害対策</p>	<p>【会長】 意見交換に進む。防災対策等についてお話を伺いたい。先日台風 19 号があつて避難してくださいコールがテレビで鳴り、多摩市の放送でも鳴り、繰り返し言われたけれど一体いつ行ったらいいかわからなかったということがあった。計画運休等、最近は予測がつくのでそれに伴ってお店が閉まったり病院が閉まったりする中でいつ準備したらいいか、おそらく医療的ケアの方々には迷われたと思う。私が担当している方で実際に避難された方がいて、今回は自治体の方から連絡があったというお話が何件もあり、何か動きが違うと感じた部分もある。ただ、実際に決断して暴風雨の中、障がい児と他の兄弟を連れて避難所に行ったら、水溜まりがすごく、とても車いすを押して入れない状況だった。ずぶ濡れになりながらとりあえず避難はしたけどやはり大変だったというお話があった。また、一般の方もそうだが、避難所に行ってもいっぱい違う避難所に移動しなくてはいけなかったということもあり、災害の種類によって、使える避難所があったり、なかったりというのを感じた。島田療育センターは福祉避難所、後方支援病院に位置づけられていたので助けを求められたら受け入れようと決めていたが、あまり問い合わせはなかった。皆さん家で持ちこたえていた様子で、後から話を聞いて実態がわかり、本当に怖い夜だったのでとお察しする。今回のことで経験をしたことや、実体験でこうだったということがあれば、学校、生活されている方、訪問看護から話をお聞きできればと思う。</p> <p>【委員】 台風の前日からショートステイで、安心していられた。インシュリンを打っているお子さんが避難所に避難した時に、優先的に食料をもらえる目印として、バッチなどはあるか？</p> <p>【防災安全課】 そういったものは決まってない。避難所は地域住民が運営するが、市も入ってルールを決めている最中であり、要支援者の方に配慮したルールを考えている。</p> <p>【委員】 アレルギーのお子さんだとわかりやすいベストのようなものをつけるというグッズはあ</p>

るが、希望しない方もいる。

【委員】

自宅は影響なく済んだが、保護者間の情報交換では他市の方が、障がいのある子とお母さんが支援学校へ、兄弟とお父さんが避難所へ分かれて避難した家族があった。障がいのある子はいつも通っている学校が安心なので、自分も避難する場合は学校へ避難することになると思った。デイケアでは通所中に災害が起きた場合は、家族が迎えに行くまで預かると言ってもらっており安心している。家で災害が起きた際、電源が足りなくなるなど何かあった時に、病院に行ったら対応してもらえるか、受け入れ先があるか、事前に確認できると安心できる。

【委員】

多摩地域全体の訪問をしており、実際にあったことをお伝えする。避難地域になって避難したいと思った方で、子どもを連れて車でしか動けない状況で避難所へ相談したところ、車で来ないように言われ親戚のところへ車で避難した方がいた。また、呼吸器の子で退院したばかりでバッテリーが十分になかったため病院に相談して事前に預かってもらうことができた。実際に川が氾濫した地域の方で、水とともに泥も運んで来るので、翌日、子どもを迎えに行く時に道路に泥が溜まって車が動ける状況ではなかった。たまたま造成していた住居があり、泥をかき出してもらいようやく動けた。想像していなかったことがいろいろなところで起こった。福祉避難所がいつどこに開設されるか、どこからどのように情報を得たらよいか、お母さん達は非常に悩まれた。事前に福祉避難所を教えておくと避難者が集中する恐れがあるので教えないという自治体もある。避難所が開設され時に、必要な子どもたちにどのような連絡ルートで連絡するかが課題。他市の浸水した地域では訪問看護ステーションから連絡が入り、一晩お子さんを預かってくださったということがあった。質問だが、自主防災組織に名簿を渡すことについて3割の方が合意したとのことであったが、7割の方が断った理由は何か。

【防災安全課】

そもそも、地域との繋がり対して消極的な方がいらっしゃるようだ。逆に、繋がりを持ちたい気持ちはあるが、その地域の方に迷惑をかけてしまうという話もあった。サポートを受ける側が負担に思う。心理的に申し訳ないという気持ちがあるようだ。

【委員】

台風当日は学校がない日だったが、翌週、校長から避難所として開設したと話があった。当日、教員は出勤できなかった。学校に備蓄しているが、把握している責任者が不在できちんと活用できたか。学校が安心だからと避難されたご家族がおり、学校を抛り所にされているので、日頃からきちんと用意しておくことが大事だと思った。

【会長】

特別支援学校に通っているお子さんだと環境の変化が苦手なので普段行き慣れているところが避難所であるというのはご家族も道がわかるし、とてもいいことだと思う。島田療育センターにも支援学校にも当てはまる。医療的ケア児は多摩市全体にお住まいで、例えば、支援学校のある聖ヶ丘もそうだが、島田療育センターは多摩市の端にあるので、

現実問題としてそこに移動できるかということがある。何箇所か避難場所があると良い。普段防災訓練感覚で、障がいのある方も1回は避難場所に足を運んでおくなどできると良い。行き慣れている、1回行ったことがある、知っているところというのは強みになると個人的に思っている。

【委員】

市役所がどのように対応したか伺いたい。

【防災安全課】

前々日の木曜日から対応を開始した。道路、下水道、公園、教育委員会の各主管課長が集まり、大体のオペレーションを決めた。オペレーションを受けて、金曜日の朝の段階で、市長、副市長、総務部長が今回の見立てについて話した。金曜日の夕方に災害対策本部を立ち上げ、市長以下、全部長が集まり、気象状況の見立て、予想される災害、どここの避難所を何時に開設するかについて決めた。金曜日の夜の段階で、土曜日朝9時から、1回目の会議を開くことを決めており、その段階で避難所を開くことを決めていた。防災安全課は金曜日の夜から泊り、土曜日の朝4時に警報が発令された。雨量が想定外だったので、予想以上の約2,600人が避難された。避難所は当初予定していた7箇所に3箇所増やして10箇所を開設し、どうにか避難していただいたというのが、災害対策本部として苦勞したところ。関戸・一ノ宮地区では水防訓練を毎年実施しており、呼びかけに即時応じていただいた結果と考えている。

【事務局】

災害対策本部が設置され、福祉医療対策部では要配慮者のケアを中心に行った。障がい者、高齢者を前日に抽出し、障がい者については前日に個別に電話連絡をした。高齢者については民生委員等に訪問を依頼し、前日の昼間に回っていただいた。土曜日当日、徐々に緊迫した状況になり、最終的に避難指示がでた19時頃、電動車いすを使っている方、家にまだいる方等へ再度個別に電話し、避難を促した。市の職員が電動車椅子の方の家に行き、電動車椅子を市の車に載せ、ご本人はタクシーで避難所に移動した。反省点として、実際に移動してもらわなくてはいけない状況になった時にどのようにしたらよいか、前日までに十分検討できていなかったことがある。

ハザードエリアの移動困難者を抽出し、前日電話連絡を入れたが、要支援者台帳は4月の時点の台帳だったので、前日に抽出をしておいた。四半期毎に台帳を更新する必要等が課題として見えた。事前に連絡を入れていたが、当日、移動できない方もいた。垂直移動で2階に避難していた方もいたが、平屋の方や1階の方はどうするか。多摩川決壊のおそれがあった今回の台風では、いつの段階でどう動くか、地震の時とは想定が変わってくるということが反省点として見えた。

【委員】

当院の状況をお伝えする。三次救急病院としての役割があり、災害時にはそちらが最優先となる。医療的ケア児が来た時にどうするか想定はしていたが、対外的には断っていた。三次救急を受けるためにベッドを確保しておかなくてはいけないこと、電源供給が断たれ自家発電になった場合、電源が制限された状況で大怪我をした人に手術を行なわ

なければならないことを考えると、最少の電源しか使えない。電源のために受入れることは、命を落としかねない人を救えないということが想定されるため断っていた。個別の状況を踏まえ、できる限りの対応ができるよう準備はしているが、病院として役割がいくつかある中でバランスを持ってやっていく形になる。多くの人があることを予測していたが、台風がひどく、危険を冒して病院に来ることは現実的でなく、幸いなんとかしのげたところが多く、実際にほとんど来なかった。できるだけ地域の中で収める計画をたてた方がよい。自助がまず大切であり、その上での共助、公助ということになる。公助では福祉避難所が問題で、福祉避難所がどこに開かれる予定か、個別にお知らせするほうがよい。避難場所が分からないと、急に避難が必要な状況になった時に不安、パニックを増長する原因になる。

【委員】

東京電力から発電機を借りたが、携行缶ではガソリンを売ってもらえなかった方がいた。

【会長】

自助がまず大事ということを再認識して、関わっている支援者に事例を伝えてもらいながら、どういうことができるか想定しながら準備をするというのが大事。共助では、自主防災組織について直接お話をうかがうことができた。関わっている利用者さんに声かけし、いざとなったら協力してもらえる関係性を作っていただけでいい。

公助については、公的な機関をいかに把握して使うか。大病院はその役割があるということで、なるべく地域でできること、実際に移動できる範囲を想定しての公助を考える。やはり、1回体験しておくということが大事と思っている。

まだ課題はあるが、今回は災害をテーマに協議させていただいて、より具体的な対策ができるように、多摩市の方にも取り組みを進めていただきたいと思います。また、今日参加してくださっている委員の方は他にも身近で感じられたことなどを持ち帰ってお話ししていただき、感想などがあればと思っている。今回のこの災害のテーマはもちろん、今までの第1回、第2回の協議会の内容も含めて、実際のご自身の所属されている部署や関わっている方々に、実際お話しされての意見や、実際こういうことがあって、こう取り組んだなど、地域の人たちと話したことはあるか。

【委員】

この会議に参加していることは従業員に伝えており、事業所に持ち帰ってより良くしていきたいとは思っている。放課後等デイサービスに関しては、防災についてずっと話をしているが、解決策がない。大きな病院などでは対応しうることも規模の小さい当事業所では対応することが難しい状況の中で、ご利用中に地震など発災があったときに、どこまで子どもたちの命を守れるか。1民間企業で頑張っても難しいところがある。市内に10数ヶ所の放課後等デイサービスがある。利用中のお子さんの命を守ることは民間企業が担うところだと思うが、市と協同しながら、福祉避難所になり得る場所だと思う。通所しているお子さんが多いので、何かあったら普段通っている所に来てもらえれば大丈夫だと言うためにも、民間企業と市の力で整備していけたらいいと思った。

【委員】

老夫婦のお宅への訪問診療の際、台風 19 号の時避難されたか、話を伺った。おひとりは手押し車を押してやっと歩いている方で、おひとりは認知症の方。避難所に行くこと自体が難しい、行ったら不安定になるだろう、ということで実際に避難はされなかった。避難所が設けられても、どうやって行くかが重要。震度 6 以上の時は車で移動しないよという警察のアナウンスがあるが、車でないと移動できない方もたくさんいる。避難場所に行く手段を考える必要がある。例えば関戸の人が島田療育センターに行くのは距離的に難しい。放課後等デイサービス等、もっと近いところが地震でも使えるといったことを考えなければいけないと今日思った。

個人情報オープンにすることを躊躇されている家族がいることについて改めて考えた。食料、薬を自宅に十分に用意しているから大丈夫と言っているのか、又は個人情報だから嫌だと言っているのか、どちらか気になっている。個人情報を渡すのは嫌だが、その先にある支援は求めているのか、改めて難しいと思った。自分たちの備えが自助として成り立っているのか。個人情報を知られたくないだけではなかるうかということ、とても懸念している。

【委員】

保健所でも災害時の対策を考えているが、救急医療においてディーマット等、災害救急が最初に支援に来た時にどこに優先的に行くのかを決めるにあたり、基礎情報が重要。在宅避難している方にもいえることで、医療的ケア児がどこに何人いるのか、医療的な課題のある人がどこの避難所に何人いるのか、情報を揃えたうえで優先順位を決めていく。情報をどうやって集約するのか、非常に大きな課題になる。サポーターや周囲の方が最終的に集まるのは市役所の災害対策本部になると思うが、医療コーディネーターの先生、医師会の先生等と共に、的確に優先順位を決めなくてはいけない。自助、共助では限界があるところなので、そういった情報の流れについて等、市役所をお願いしたい。

【委員】

今回の台風で訪問看護ステーションでは、呼吸器のお子様をお持ちの方やさまざまな機関から多くの電話があり、対応した。台風は来るものだから、予測ができ、事前準備ができた。事前にどういう時に訪問看護ステーションに連絡をするかなど、市担当者と確認できたのがよかった。利用されている精神の方で、一人で家にいると不安になり、警戒区域ではないが避難した方がいた。床に寝るなど、初めてだったが、体験できて良かったという声があった。他市の水際にお住まいの方で、近くの避難所に避難しようとしたがいっぱいで入れず、車の中で過ごしたという報告があった。他市の外国人の方で、言葉のコミュニケーションスキルがなく、自分から発信することができず、パニックになった方がおり、そういう時にどこに助けを求めれば良いかについても課題だと思った。

【会長】

協議を終了し、事務局に返す。

<p>②今後の進め方について</p>	<p>【事務局】 本日、災害の話では先日の台風 19 号のを中心に話していただいた。自助、共助、公助ということでまとめていきたい。あと 2 回ぐらいで協議会の報告書としてまとめていく。今日の話の中で、それぞれ皆さんが自分でできること、共助のこと、公助のことをまとめつつ、具体的に必要なことや、協議会としてはこういうところは大事に今後の施策としたい等、ポイントをまとめながら報告書にしていきたいと思う。次回は、今日の議論も含めてまとめをしつつ、今日の議論の続きについて協議していただく。また、前回、他の議題もでている。例えば「サービスと社会資源」や「ネットワーク」についても議論を深めていかななくてはいけない部分が多いので、そこについても議論し、今日の議題についてもまとめながら 6 月ぐらいに具体的な報告書にしていきたい。話し合いのやり方、進め方についてご意見があるか。</p> <p>【委員】 協議会の場で言い切れなかったことについて後日メール等で送り、それを委員間で共有することができれば、短い時間の中で共有しきれなかったことについて、皆で共有できる。あわせて次の議論についても意見を募っていければ、有効な時間の使い方ができると思う。</p> <p>【委員】 課題がたくさんあって、幅広いところを議論している。報告書に向けて、課題を絞って、現実的な対策としての市の体制や、それぞれの役割を具体的にしていかななくてはならない。市役所として報告書のイメージを示してもらえるとその範囲に絞って議論ができると思う。</p> <p>【事務局】 今のご意見を参考にさせていただき、報告書にまとめるにあたって、市の方も検討していきたい。今日言い切れなかったことについては事務局までご意見いただきたい。こちらから声をかけさせていただくこともあるかと思うので、よろしくをお願いします。</p>
<p>3. 次回日程について</p>	<p>【事務局】 次回日程は 2 月 20 日(木)に決定</p>
<p>4. 閉会</p>	<p>～閉会～</p>